

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	国語 I B	
科目基礎情報							
科目番号		0004		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		電子情報工学科		対象学年	1		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		教科書：「高等学校言語文化」（数研出版） 参考書：石谷春樹編「日本近代文学選 増補版」（アイブレーション）					
担当教員		熊澤 美弓					
到達目標							
古典学習を通じて、当代の人間の考え方や生き方を知ることから始まり、加えて現代に生きる日本人として必要な「古典文学」の基礎知識の獲得と読解力の向上を果たすことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わい理解することができる。		古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。		古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱しても、特有のリズムや韻などを味わうことができない。	
評価項目2		代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。		代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えることができる。		代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えることができない。	
評価項目3		教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。		教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を理解できる。		教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を理解・習得することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		本科目は、高等専門学校の国語の基礎能力を「古文・漢文」の分野を中心にして身につけさせる。まず、「古典」学習の意義（(1)当時の人々の考え方、生き方を知る。(2)古典を通じて現代の自分たちの生活、考え方、生き方を捉えなおす。）を再確認する。具体的には、中学校までの古典学習の総復習を含めながら、高専生としてそして現代に生きる日本人として、必要な古典文学の基礎知識の獲得と、読解力の向上をねらいとする。					
授業の進め方・方法		・すべての内容は学習・教育目標（A）の＜視野＞＜意欲＞、及び（C）の＜発表＞に対応する。 ・授業は講義・演習形式で行う。講義中は集中して聴講する。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。					
注意点		「達成目標の評価方法と基準」 下記授業計画の「到達目標」のすべてを網羅した問題を1回の中間考査、1回の定期考査とレポート・小テスト等を出題し、目標の達成度を評価する。各「到達目標」の重みは概ね均等する。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。 「学業成績の評価方法および評価基準」 後期中間・学年末の2回の試験の平均点を60％、課題提出、小テスト、授業中の問題演習への取り組み等の結果を40％として評価する。ただし、後期中間・学年末の2回の試験ともに原則として再試験は行わない。 「単位修得要件」 与えられた演習課題を提出し、学業成績で60点以上を修得すること。 「あらかじめ要求される基礎知識の範囲」 中学校卒業程度の国語能力、特に「古文・漢文」についての基礎学力を身につけていることを前提とする。 「レポート等」 理解を深めるため、すべての教材に演習課題を与える。また、古典文法小テスト、課題提出等を課する。 「注意事項」 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。また、課題は期限厳守して提出すること。なお、本教科は後に学習する国語Ⅱ、日本文学。言語表現学、文学概論の基礎になる科目である。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 古文入門および学習方法について（「言語文化と古文」）		1. 「古典」の学習の目当ての意義を理解し、学習する意義を確認する。		
		2週	古文入門および学習方法について（「古文の特徴」） 「児のそら寝」①（『宇治拾遺物語』）		2. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、古文を読むための基礎(歴史的仮名遣い等)を理解している。 3. 登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解し、古文を読むための基礎(品詞等)を理解している。		
		3週	「児のそら寝」（『宇治拾遺物語』）②		上記2・3に同じ。		
		4週	古文の文法（品詞分類・用言と活用形・動詞・形容詞・形容動詞）		4. 古典文法の基礎学習（動詞・形容詞・形容動詞）の学習内容を理解している。		
		5週	随筆 「つれづれなるままに」（『徒然草』）		5. 前期中間試験の内容を理解した上で、三大随筆のそれぞれの文学的価値を理解している。		
		6週	随筆 「ある人、弓射ることを習ふに」（『徒然草』）①		6. 兼好法師の人生観および「徒然草」の世界観を理解し、古典文法の基礎学習の学習内容を理解している。		
		7週	随筆 「ある人、弓射ることを習ふに」（『徒然草』）② 前期中間までの復習		7. 古文を読むための基礎（係り結び等）を理解し、前期中間までの学習内容を理解している。		
		8週	前期中間試験		前期中間試験		

2ndQ	9週	前期中間試験の解説と総括 漢文入門 訓読・返読文字	8. 前期中間試験の内容を理解した上で、漢文の特色を学んで、漢文訓読の基礎（訓点・書き下し文等）を理解している。
	10週	漢文入門 再読文字・助字	9. 漢文の特色を学び、漢文訓読の基礎（置き字・再読文字等）を理解している。
	11週	故事 虎借威①（「戦国策」） 否定・疑問の句法	10. 故事成語の学習を通して、戦国時代の諸国と遊説家の言行を理解し、漢文の句法（否定・疑問）を理解している。 11. 故事成語の学習を通して、文学史的価値を理解し、漢文の句法（反語・感嘆）を理解している。
	12週	故事 虎借威②（「戦国策」） 反語・感嘆の句法	上記10・11に同じ
	13週	歌物語 「芥川」①（「伊勢物語」）	12. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、古典文法の基礎学習（助動詞）の学習内容を理解している。 13. 登場人物の心理に注目して、古文随筆の世界を理解し、古典文法の基礎学習（助動詞）の学習内容を理解している。
	14週	歌物語 「芥川」②（「伊勢物語」） 和歌の修辞①	上記12・13に同じ
	15週	歌物語 「芥川」③（「伊勢物語」） 前期末までの復習 授業のまとめ（アンケート）	上記8～13に同じ
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	課題・提出物	小テスト・発表		合計
総合評価割合	60	20	20	0	100
配点	60	20	20	0	100